



一宮町 サーフィン



平成31年3月19日(火)発行

## 「東上総教育の充実に向けて」

所長 宮内 教夫

東上総の皆さん、年度末に向け、充実しつつも忙しい日々を送っていることを想像しています。私自身の東上総教育への思いを述べて、最終号の挨拶としたいと思います。

絵本作家の佐野洋子さん（『100万回生きたねこ』が代表作として有名だと思えます。）は、自著『私の息子はサルだった』の巻末で、ただ一度、自分の6歳の息子に感動したエピソードとして、こんなことを述べています。「ママ知っている、さっき××ちゃん、ベランダからじっと外を見ていたんだよ、ずっとだよ。××ちゃん、何を考えていたのかなあ」サルのようにおたけびを上げていた彼は、彼女をずっと見守り続けていたのだ。自分でないものが、何を考えているのかと自分に問うていたことを知って、私は彼を一人の人間として信頼したいと思った。（後略）

私たちは、忙しさや効率を重視する中で、他者の心を理解しようとするのを忘れがち気がしています。学校は子供たちと教職員の学習の場であるとともに生活の場です。人間が人間を教えようとする場なのです。相手の心を理解しようとする、簡単なことではありませんが、その重要性をお互いに理解できれば、子供たちも教職員も気持ちよく生活でき、誰からも信頼される、充実した学校ができあがるように思います。

東上総教育のよさを示したキーワードが入った箱を手さぐりで探してみると、学力向上対策、いじめ防止、不登校対策…、そんなカードを引いた最後に、「いい先生」が出てくる、そんなことを心から望んでいます。

## 「『生きる力』を育む東上総の教育」を発行

「平成30年度『生きる力』を育む東上総の教育」が、まもなく完成します。

第1章：学力・授業力の向上に関しては、新学習指導要領に授業改善の視点として示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた子供の姿と手立ての例を挙げました。さらに、単元計画や本時の展開に、授業の中で3つの視点をどう位置付ければよいかを具体的に例示しました。内容には、スタートカリキュラム作成時の視点（生活科）、全体計画例（総合的な学習の時間）等、それぞれの教科で課題になっていることを取り上げています。

また、第2章：特別支援教育、第3章：生徒指導、第4章：健康・安全、食育、体力向上、第5章：開かれた学校づくり、第6章：教職員の研修、第7章：信頼される学校づくり、第8章：適正・正確な事務処理の推進と学校教育全般にわたって、今日的な課題について管内の実情を踏まえて記述しています。

「授業づくり」「校務の運営」などのヒント集として、是非、ご活用ください。平成31年度「第1回教育長会議・校長会議」（4月開催）で、本冊とデータCDを配付します。



東上総教育事務所

東上総教育  
事務所のマーク

## 「高根小学校『授業力』向上実践発表会」開催

平成31年1月23日（水）長生村立高根小学校において『自ら考え、表現する児童の育成』～国語科における言語活動を工夫した授業づくりを通して～をテーマに『授業力』向上実践発表会が開催されました。

高根小学校は平成29年度より、県教育委員会の「ちばっ子の学び変革」推進事業の研究指定校となり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践研究を行っています。本年度の実践発表会は、研究の中間発表の場として位置付けられ、4学級で国語科授業の展開、3つの学年で表現活動の発表がありました。授業では、対話的な活動を通して本時のねらいが達成できるよう、工夫された展開がなされていました。また、表現活動では、国語科で身に付けた力を活用し、児童が生き生きと発表していました。来年度は3年間の研究の集大成として公開研究発表会が開催される予定です。



## いきいきちばっ子「元気アップ・プラン大作戦」コンクール

千葉県教育委員会では、子供たちが、よりよい生活習慣を身に付けることを目的に、いきいきちばっ子「元気アップ・プラン大作戦」コンクールを実施しています。

今年度は、モデルプラン部門で九十九里町立九十九里小学校が「優秀賞」を受賞しました。学級みんなでも部門で大多喜町立大多喜中学校が「優秀賞」を受賞しました。また、「奨励賞」を山武市立大富小学校、山武市立緑海小学校、大網白里市立増穂小学校、大網白里市立白里小学校、横芝光町立南条小学校、横芝光町立東陽小学校、勝浦市立上野小学校、茂原市立早野中学校、いすみ市立国吉中学校、いすみ市立大原中学校、御宿町立御宿中学校が受賞しました。おめでとうございます。

## いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」

千葉県教育委員会では、子供たちの体力向上と社会性の育成を目的に、8つの種目に取り組む『いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」』を実施しています。

今年度は、大網白里市立白里小学校（3位）、大網白里市立季美の森小学校（6位）、茂原市立東郷小学校（7位）、東金市立東小学校（8位）が「年間賞」を受賞しました。おめでとうございます。

学校現場に役立つ！  
情報サーチ



## 特別支援教育の参考資料の活用を



いわゆる「障害者差別解消法」が施行され「障害を理由とする差別の禁止」とともに、本人・保護者の意思の表明に基づく合理的配慮の提供が、法律上公立学校には義務化されました。学校では保護者との合意形成を図り、個別の教育支援計画への記入が進められていると思います。文部科学省が発行している「教育支援資料」（平成25年10月）や千葉県教育委員会作成の「特別支援教育指導資料集」（平成30年3月）には、障害種別の合理的配慮の観点が示されています。また国立特別支援教育総合研究所のホームページ内の「インクルーシブ教育システム構築支援データベース（インクルDB）」には、障害種別・学年・在籍学級別に提供例が示されていますので、参考にしてください。

千葉県では、「合理的配慮事例集～小中学校の通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある児童生徒の事例を中心に～」（平成29年3月）を発行しホームページに掲載しています。今年度は、新たに「合理的配慮事例集～高等学校に在籍する発達障害の可能性のある生徒の事例を中心に～」を作成しました。

その他にも、総合教育センターのホームページには、「特別支援学級担当者の専門性向上パッケージ」をはじめ「ユニバーサルデザインの考えに学ぶ どの子も『わかる』『できる』をめざす支援の工夫ヒント集」など様々な参考資料があります。ホームページからダウンロードできますので、ご活用ください。